

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2019-2600  
(P2019-2600A)

(43) 公開日 平成31年1月10日(2019.1.10)

(51) Int. Cl. F I テーマコード (参考)  
**F 2 5 D 25/00 (2006.01)** F 2 5 D 25/00 G  
 F 2 5 D 25/00 E

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号	特願2017-115655 (P2017-115655)	(71) 出願人	503376518 東芝ライフスタイル株式会社 神奈川県川崎市川崎区駅前本町2 5 番地 1
(22) 出願日	平成29年6月13日 (2017. 6. 13)	(74) 代理人	100083806 弁理士 三好 秀和
		(74) 代理人	100101247 弁理士 高橋 俊一
		(74) 代理人	100095500 弁理士 伊藤 正和
		(74) 代理人	100098327 弁理士 高松 俊雄
		(72) 発明者	磯野 啓博 神奈川県川崎市川崎区駅前本町2 5 番地 1 東芝ライフスタイル株式会社内

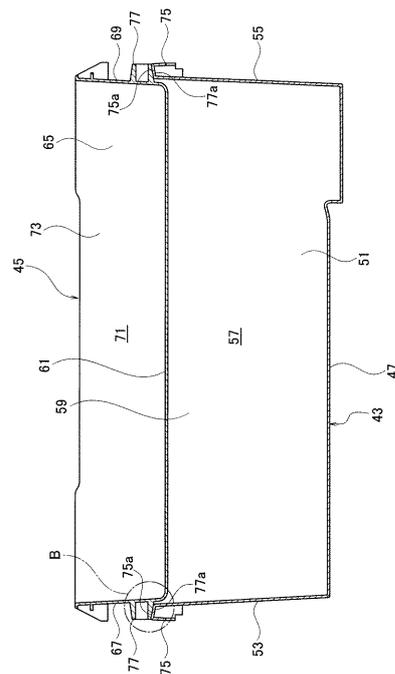
(54) 【発明の名称】 冷蔵庫

(57) 【要約】

【課題】 上部容器と下部容器との間の摺動性を確保しながら、相互間のガタつきを抑える。

【解決手段】 冷蔵庫本体 3 に設けられる野菜室 7 と、野菜室 7 に配置される下部野菜ボックス 4 3 と、下部野菜ボックス 4 3 の上に前後方向に移動自在に載せられる上部野菜ボックス 4 5 とを有する。下部野菜ボックス 4 3 と上部野菜ボックス 4 5 との左右両側部での上下方向の互いの下部当接面 7 5 a 及び上部当接面 7 7 a は、水平面に対し左右方向に沿って傾斜している傾斜面であり、左右両側部の傾斜面は左右対称形状である。

【選択図】 図 6



**【特許請求の範囲】****【請求項 1】**

冷蔵庫本体に設けられる貯蔵室と、  
前記貯蔵室に配置される下部容器と、  
前記下部容器の上に前後方向に移動自在に載せられる上部容器と、を有し、  
前記下部容器と前記上部容器との左右両側部での上下方向の互いの当接部は、少なくとも  
もいずれか一方が水平面に対し左右方向に沿って傾斜している傾斜面であり、  
前記下部容器と前記上部容器との少なくともいずれか一方に設けられた左右両側部の前  
記傾斜面は、左右方向に沿う傾斜方向が互いに逆方向であることを特徴とする冷蔵庫。

**【請求項 2】**

前記傾斜面は、前記貯蔵室の中心側が外側よりも上下方向で下方となるよう傾斜してい  
ることを特徴とする請求項 1 に記載の冷蔵庫。

**【請求項 3】**

前記傾斜面は、前記貯蔵室の中心側が外側よりも上下方向で上方となるよう傾斜してい  
ることを特徴とする請求項 1 に記載の冷蔵庫。

**【請求項 4】**

前記上部容器は、前記下部容器の上に載せた状態で下部が、下部容器の上方開口部から  
内部に入り込み、前記下部容器の内部に入り込んだ部分の前記上部容器の下部の左右方向  
の幅は、前記下部容器の上方開口部の左右方向の幅より小さいことを特徴とする請求項 1  
ないし 3 のいずれか 1 項に記載の冷蔵庫。

**【発明の詳細な説明】****【技術分野】****【0001】**

本発明は、貯蔵室に配置した下部容器の上に上部容器が載せられる冷蔵庫に関する。

**【背景技術】****【0002】**

特許文献 1 には、冷蔵庫の野菜室に野菜等の食品を収納する容器が設けられ、容器の開  
口した上部に比較的底の浅い小ケースを、前後方向に摺動可能に載置することが開示され  
ている。

**【先行技術文献】****【特許文献】****【0003】**

**【特許文献 1】**特開 2008 - 45845 号公報

**【発明の概要】****【発明が解決しようとする課題】****【0004】**

ところで、野菜室の下部に位置する容器及び上部に位置する小ケースは、互いの摺動性  
確保や、部品の製造管理のために相互間にある程度のクリアランスが必要となっている。  
ところが、クリアランスが大きいと、容器と小ケースとの間のガタつきが大きくなってしま  
う。

**【0005】**

そこで本発明は、上部容器と下部容器との間の摺動性を確保しながら、相互間のガタつ  
きを抑えることを目的としている。

**【課題を解決するための手段】****【0006】**

本発明の実施の形態の冷蔵庫は、冷蔵庫本体に設けられる貯蔵室と、前記貯蔵室に配置  
される下部容器と、前記下部容器の上に前後方向に移動自在に載せられる上部容器と、を  
有する。前記下部容器と前記上部容器との左右両側部での上下方向の互いの当接部は、少  
なくともいずれか一方が水平面に対し左右方向に沿って傾斜している傾斜面を備える。前  
記下部容器と前記上部容器との少なくともいずれか一方に設けられた左右両側部の前記傾

10

20

30

40

50

斜面は、左右対称形状である。

【図面の簡単な説明】

【0007】

【図1】本発明の実施形態に係わる冷蔵庫の正面図である。

【図2】図1の冷蔵庫の右側方から見た断面図である。

【図3】図1の冷蔵庫の野菜室に配置する下部野菜ボックス及び上部野菜ボックスを示す側面図である。

【図4】図3の下部野菜ボックス及び上部野菜ボックスの正面図である。

【図5】図3の下部野菜ボックス及び上部野菜ボックスの平面図である。

【図6】図3のA-A断面図である。

10

【図7】図6のB部の拡大図である。

【図8】他の実施形態を示す、図7に対応する説明図である。

【図9】他の実施形態を示す、図7に対応する説明図である。

【図10】他の実施形態を示す、図7に対応する説明図である。

【図11】他の実施形態を示す、図7に対応する説明図である。

【発明を実施するための形態】

【0008】

以下、本発明の実施の形態を図面に基づき説明する。

【0009】

図1、図2に示すように、本発明の実施形態に係わる冷蔵庫1は、冷蔵庫本体3の内部に貯蔵室として、上段から下段に向けて冷蔵室5及び野菜室7を順次設け、野菜室7の下部には製氷室9と上冷凍室11とを左右に並べて設けてある。さらに、貯蔵室として、製氷室9及び上冷凍室11の下部には、下冷凍室13を設けてある。各貯蔵室は隔壁により仕切っている。なお、以下の説明での「前後方向」は、図2中で左側の冷蔵庫前面側を前、右側の冷蔵庫裏面（奥）側を後とした前後方向であり、「左右方向」は図1中の冷蔵庫前面側から見て左右方向である。

20

【0010】

冷蔵室5の前面には、冷蔵室5の前面開口部を開閉する左右の開閉扉15、17を設けている。左の開閉扉15は、図1中で左側端部の図示しないヒンジを介して左右に開閉し、右の開閉扉17は、図1中で右側端部の図示しないヒンジを介して左右に開閉する。

30

【0011】

野菜室7、製氷室9、上冷凍室11及び下冷凍室13の各前面には、それぞれの前面開口部を開閉する引き出し式の引出扉19、21、23及び25を設けている。引出扉19、21、23及び25は、いずれも冷蔵庫本体3の図示しない各ガイドレールにガイドされて前後にスライド移動する。

【0012】

冷蔵庫本体3の下冷凍室13の後方下部には機械室27を形成し、機械室27に圧縮機29を収容している。冷蔵庫本体3の後方の野菜室7の後側に、送風ダクト31を形成し、送風ダクト31の上部に冷蔵用冷気循環ファン33を、下部に冷蔵室・野菜室用冷却器35をそれぞれ配置している。さらに、冷蔵庫本体3の後方の製氷室9、上冷凍室11及び下冷凍室13の後側に、送風ダクト37を形成し、送風ダクト37の上部に冷凍用冷気循環ファン39を、下部に冷凍室用冷却器41をそれぞれ配置している。

40

【0013】

冷蔵室・野菜室用冷却器35及び冷凍室用冷却器41は、圧縮機29から供給される冷媒によって冷却される。冷蔵室5及び野菜室7は、冷蔵用冷気循環ファン33と冷蔵室・野菜室用冷却器35の動作により、それぞれ所定の設定温度に冷却して保持される。製氷室9、上冷凍室11及び下冷凍室13は、冷凍用冷気循環ファン39と冷凍室用冷却器41の動作により、それぞれ所定の設定温度に冷却して保持される。冷凍用冷気循環ファン39付近の冷気流路内には、貯蔵室用ダンパ39Aを設けており、図示しない制御部は貯蔵室用ダンパ39Aの角度調整を行う。

50

## 【 0 0 1 4 】

野菜室 7 の引出扉 1 9 は、野菜等の貯蔵物を収納する下部容器としての下部野菜ボックス 4 3 を保持して収容している。下部野菜ボックス 4 3 の上には上部容器としての上部野菜ボックス 4 5 を載せている。上部野菜ボックス 4 5 は、下部野菜ボックス 4 3 に比較して容積が小さい。

## 【 0 0 1 5 】

引出扉 1 9 は、野菜室 7 側の後面の上部に、前後方向に延在する図示しない容器保持アームを、左右一対備えている。一方、図 3 ~ 図 5 に示す下部野菜ボックス 4 3 の上端の左右両側には、左右両側方に向けて突出する被保持突部 4 3 a を、下部野菜ボックス 4 3 の前後方向の略全長に設けている。引出扉 1 9 の容器保持アームの上に被保持突部 4 3 a を載せることで、下部野菜ボックス 4 3 が引出扉 1 9 に保持される。この状態で、下部野菜ボックス 4 3 は引出扉 1 9 (容器保持アーム) から上方に持ち上げることで取り外すことができる。

10

## 【 0 0 1 6 】

下部野菜ボックス 4 3 は、図 3 ~ 図 6 に示すように、下部底壁 4 7、下部前壁 4 9、下部後壁 5 1 及び左右の下部側壁 5 3、5 5 を備えている。下部野菜ボックス 4 3 は、これらの壁 4 7、4 9、5 1、5 3、5 5 に囲まれた内側に下部収納空間 5 7 が形成され、下部収納空間 5 7 は、上方開口部 5 9 が形成されて上方が開口している。上記した被保持突部 4 3 a は、左右の下部側壁 5 3、5 5 の上部に形成されている。なお、図 2 に示す下部野菜ボックス 4 3 及び上部野菜ボックス 4 5 は、簡略化して示したもので、図 3 ~ 図 6 に示す下部野菜ボックス 4 3 及び上部野菜ボックス 4 5 とは形状が異なっている。

20

## 【 0 0 1 7 】

上部野菜ボックス 4 5 は、上部底壁 6 1、上部前壁 6 3、上部後壁 6 5 及び左右の上部側壁 6 7、6 9 を備えている。上部野菜ボックス 4 5 は、これらの壁 6 1、6 3、6 5、6 7、6 9 に囲まれた内側に上部収納空間 7 1 が形成され、上部収納空間 7 1 は上方開口部 7 3 が形成されて上方が開口している。

## 【 0 0 1 8 】

図 3 の A - A 断面図である図 6 及び、図 6 の B 部を拡大した図 7 に示すように、下部野菜ボックス 4 3 の左右の下部側壁 5 3、5 5 の上部には、上部野菜ボックス 4 5 が載せられる受部 7 5 を設けている。下部側壁 5 3、5 5 は、図 3 に示すように受部 7 5 よりも前側が、受部 7 5 に対して上方に突出する側壁前部 7 6 を備えている。側壁前部 7 6 は、受部 7 5 を備える部分の下部側壁 5 3、5 5 よりも上下方向の高さが高く、側壁前部 7 6 の上端は下部前壁 4 9 の上端と同一面である。

30

## 【 0 0 1 9 】

受部 7 5 は、下部側壁 5 3、5 5 の上端から外側に屈曲する当接部としての下部当接面 7 5 a と、下部当接面 7 5 a の外側の端部から下方に向けて屈曲する外側フランジ 7 5 b とを備えている。下部当接面 7 5 a は、野菜室 7 における左右方向の中心側(内側)が外側に対して上下方向で下方となるように水平面に対して傾斜する平面状の傾斜面である。

## 【 0 0 2 0 】

一方、上部野菜ボックス 4 5 は、左右の上部側壁 6 7、6 9 の上部底壁 6 1 近傍に、左右方向の外側に向けて突出する被受部 7 7 を形成している。被受部 7 7 は、上部底壁 6 1 の近傍で上部底壁 6 1 よりも上方に位置し、上部野菜ボックス 4 5 の前側端部近傍と後側端部近傍との二箇所に設けてある。なお、被受部 7 7 は、二箇所に限らず前後方向に断続的に三箇所以上あってもよい。各被受部 7 7 は、受部 7 5 の下部当接面 7 5 a に対向する当接部としての上部当接面 7 7 a を下面に備えている。上部当接面 7 7 a は、野菜室 7 における左右方向の中心側(内側)が外側に対して上下方向で下方となるように水平面に対して傾斜する平面状の傾斜面である。

40

## 【 0 0 2 1 】

下部野菜ボックス 4 3 の下部当接面 7 5 a 及び上部野菜ボックス 4 5 の上部当接面 7 7 a は、左右方向に沿って傾斜しており、水平面に対する傾斜角度が同等である。したがっ

50

て、上部野菜ボックス４５を下部野菜ボックス４３の上に載せたときには、下部当接面７５aと上部当接面７７aとが略面接触した状態となる。左右の下部側壁５３，５５に設けてある下部当接面７５aは左右対称形状であり、左右の上部側壁６７，６９に設けてある上部当接面７７aは左右対称形状である。なお、左右一对の下部当接面７５aは、必ずしも左右対称形状でなくてもよく、少なくとも左右方向に沿う傾斜方向が互いに逆方向であればよい。左右一对の上部当接面７７aも同様にして、必ずしも左右対称形状でなくてもよく、少なくとも左右方向に沿う傾斜方向が互いに逆方向であればよい。

#### 【００２２】

図３に示すように、前側端部近傍の被受部７７は下面に凹部７７kを備えており、凹部７７kに対応して受部７５は上面に凸部７５kを備えている。凹部７７kに凸部７５kが入り込むことで、図３に示すように、上部野菜ボックス４５の下部野菜ボックス４３に対する前後方向の基準位置が確保される。下部当接面７５a及び上部当接面７７aの各傾斜面は、凸部７５k及び凹部７７kにおいて同様に形成してもよく、形成しなくてもよい。

10

#### 【００２３】

下部当接面７５aと上部当接面７７aとを当接させて上部野菜ボックス４５を下部野菜ボックス４３の上に載せた状態では、上部野菜ボックス４５の上部底壁６１を含む下部が下部野菜ボックス４３の上方開口部５９から内部の下部収納空間５７に入り込む。このとき、下部収納空間５７に入り込んだ部分の上部野菜ボックス４５の下部の左右方向の幅（左右の上部側壁６７，６９相互間の幅）は、下部収納空間５７の上方開口部５９の左右方向の幅より小さい。

20

#### 【００２４】

これにより、図７に示すように、下部野菜ボックス４３の上方開口部５９近傍の下部側壁５３，５５と、上部野菜ボックス４５の上部底壁６１近傍の上部側壁６７，６９との間に、隙間Ｔが形成される。隙間Ｔをある程度の大きさにすることで、上部野菜ボックス４５を下部野菜ボックス４３に対して前後方向に移動させたときの摺動性を確保できる。また、下部野菜ボックス４３及び上部野菜ボックス４５は、部品単品のサイズが比較的大きいことから、成形後の反りや食品を入れたときに変形しやすく、相互間の隙間を狭くすることが難しい。このため、ある程度の大きさの隙間Ｔを形成することで、部品単品の製造管理が容易となる。

#### 【００２５】

次に、上記した実施形態による作用効果を説明する。

30

#### 【００２６】

本実施形態は、冷蔵庫本体３に設けられる野菜室７と、野菜室７に配置される下部野菜ボックス４３と、下部野菜ボックス４３の上に前後方向に移動自在に載せられる上部野菜ボックス４５と、を有する。下部野菜ボックス４３と上部野菜ボックス４５との左右両側部での上下方向の互いの下部当接面７５a及び上部当接面７７aは、水平面に対し左右方向に沿って傾斜している傾斜面である。下部野菜ボックス４３及び上部野菜ボックス４５に設けられた左右両側部の傾斜面は、左右方向に沿う傾斜方向が互いに逆方向である。すなわち、図６中で左側（図７参照）の傾斜面は左から右に向かうに従って上下方向の高さが低くなる。逆に、図６中で右側の傾斜面は左から右に向かうに従って上下方向の高さが高くなる。

40

#### 【００２７】

このため、上部野菜ボックス４５を下部野菜ボックス４３の上に載せたときには、左右両側部において、上部当接面７７aが下部当接面７５aにガイドされ、上部野菜ボックス４５が下部野菜ボックス４３の左右方向の略中心位置に収まることになる。これにより、上部野菜ボックス４５は、下部野菜ボックス４３との間に左右方向のクリアランス（隙間Ｔ）があっても、左右のふらつきを抑えてガタ付きを抑えることができる。

#### 【００２８】

本実施形態は、傾斜面である下部当接面７５a及び上部当接面７７aは、野菜室７の中心側が外側よりも上下方向で下方となるよう傾斜している。このため、例えば、図７にお

50

いて、上部野菜ボックス４５が下部野菜ボックス４３に対して左側に位置するときには、左側部では上部当接面７７aが下部当接面７５aを内側下方に向けて移動し、右側部では上部当接面７７aが下部当接面７５aを外側上方に向けて移動する。これにより、上部野菜ボックス４５は、全体として右側に移動して下部野菜ボックス４３の左右方向の略中心位置に収まることになる。

【００２９】

逆に、図７において、上部野菜ボックス４５が下部野菜ボックス４３に対して右側に位置するときには、右側部では上部当接面７７aが下部当接面７５aを内側下方に向けて移動し、左側部では上部当接面７７aが下部当接面７５aを外側上方に向けて移動する。これにより、上部野菜ボックス４５は、全体として左側に移動して下部野菜ボックス４３の左右方向の略中心位置に収まることになる。上部野菜ボックス４５は、左右方向の略中心位置に収まることで、下部野菜ボックス４３との間に左右方向のクリアランス（隙間Ｔ）があっても、左右のふらつきを抑えてガタ付きを抑えることができる。

10

【００３０】

本実施形態の上部野菜ボックス４５は、下部野菜ボックス４３の上に載せた状態で下部が、下部野菜ボックス４３の上方開口部５９から内部に入り込み、下部野菜ボックス４３の内部に入り込んだ部分の上部野菜ボックス４５の下部の左右方向の幅は、下部野菜ボックス４３の上方開口部５９の左右方向の幅より小さい。この場合、上部野菜ボックス４５を下部野菜ボックス４３の上に載せる際に、上部当接面７７aが下部当接面７５aにガイドされながら、上部野菜ボックス４５は、より確実に左右方向に移動して下部野菜ボックス４３の左右方向の略中心位置に収まることになる。

20

【００３１】

次に、他の実施形態について説明する。

【００３２】

図８は、下部野菜ボックス４３Aの受部７５Aの下部当接面７５Aa及び、上部野菜ボックス４５Aの被受部７７Aの上部当接面７７Aaが、図６、図７の実施形態とは逆に、野菜室７の中心側が外側よりも上下方向で上方となるように傾斜している。この場合には、例えば、図８において、上部野菜ボックス４５Aが下部野菜ボックス４３Aに対して右側に位置するときには、左側部では上部当接面７７Aaが下部当接面７５Aaを外側下方に向けて移動し、右側部では上部当接面７７Aaが下部当接面７５Aaを内側上方に向けて移動する。これにより、上部野菜ボックス４５Aは、全体として左側に移動して下部野菜ボックス４３Aの左右方向の略中心位置に収まることになる。

30

【００３３】

逆に、図８において、上部野菜ボックス４５Aが下部野菜ボックス４３Aに対して左側に位置するときには、左側部では上部当接面７７Aaが右側の下部当接面７５Aaを内側上方に向けて移動し、右側部では上部当接面７７Aaが下部当接面７５Aaを外側下方に向けて移動する。これにより、上部野菜ボックス４５Aは、全体として右側に移動して下部野菜ボックス４３Aの左右方向の略中心位置に収まることになる。上部野菜ボックス４５Aは、左右方向の略中心位置に収まることで、下部野菜ボックス４３Aとの間に左右方向のクリアランス（隙間Ｔ）があっても、左右のふらつきを抑えてガタ付きを抑えることができる。

40

【００３４】

図９は、下部野菜ボックス４３Bの受部７５Bの下部当接面７５Baが凹状の湾曲面であり、上部野菜ボックス４５Bの被受部７７Bの上部当接面７７Baが凸状の湾曲面となっている。下部当接面７５Ba及び上部当接面７７Baの各湾曲面は、左右方向に沿って湾曲しており、左右方向の内側が外側よりも上下方向で下方となっている。

【００３５】

図９の例においても、上部野菜ボックス４５Bを下部野菜ボックス４３Bの上に載せたときには、左右両側部において、上部当接面７７Baが下部当接面７５Baにガイドされ、上部野菜ボックス４５Bが下部野菜ボックス４３Bの左右方向の略中心位置に収まるこ

50

とになる。これにより、上部野菜ボックス４５Ｂは、下部野菜ボックス４３Ｂとの間に左右方向のクリアランス（隙間Ｔ）があっても、左右のふらつきを抑えてガタ付きを抑えることができる。

【００３６】

なお、図９の例において、下部当接面７５Ｂａ及び上部当接面７７Ｂａの各湾曲面が、図８のように左右方向の内側が外側よりも上下方向で上方となってもよい。

【００３７】

図１０は、下部野菜ボックス４３については、図７と同様に受部７５が下部当接面７５ａを備えているが、上部野菜ボックス４５Ｃについては、被受部７７Ｃの外側の下端の角部７７Ｃａが、下部当接面７５ａに当接する当接部となっている。すなわち、図１０の例では、角部７７Ｃａが下部当接面７５ａに対して点接触あるいは線接触した状態となる。

10

【００３８】

図１０の例においても、上部野菜ボックス４５Ｃを下部野菜ボックス４３の上に載せたときには、左右両側部において、角部７７Ｃａが下部当接面７５ａにガイドされ、上部野菜ボックス４５Ｂが下部野菜ボックス４３の左右方向の略中心位置に収まることになる。これにより、上部野菜ボックス４５Ｃは、下部野菜ボックス４３との間に左右方向のクリアランス（隙間Ｔ）があっても、左右のふらつきを抑えてガタ付きを抑えることができる。

【００３９】

なお、図１０において、下部当接面７５ａを図９に示す下部当接面７５Ｂａと同様な凹状の湾曲面としてもよい。また、図８に示す下部野菜ボックス４３Ａの下部当接面７５Ａａに、図１０に示すような角部７７Ｃａを当接させてもよい。この場合、角部７７Ｃａを下方に突出する形状とする必要がある。

20

【００４０】

図１１は、上部野菜ボックス４５については、図７と同様に被受部７７が上部当接面７７ａを備えているが、下部野菜ボックス４３Ｄについては、受部７５Ｄの内側の上端の角部７５Ｄａが、上部当接面７７ａに当接する当接部となっている。すなわち、図１１の例では、角部７５Ｄａが上部当接面７７ａに対して点接触あるいは線接触した状態となる。

【００４１】

図１１の例においても、上部野菜ボックス４５を下部野菜ボックス４３Ｄの上に載せたときには、左右両側部において、上部当接面７７ａが角部７５Ｄａにガイドされ、上部野菜ボックス４５が下部野菜ボックス４３Ｄの左右方向の略中心位置に収まることになる。これにより、上部野菜ボックス４５は、下部野菜ボックス４３Ｄとの間に左右方向のクリアランス（隙間Ｔ）があっても、左右のふらつきを抑えてガタ付きを抑えることができる。

30

【００４２】

なお、図１１において上部当接面７７ａを、左右向に沿って湾曲する凹状の湾曲面としてもよい。また、図８に示す上部野菜ボックス４５Ａの上部当接面７７Ａａに、図１１に示すような角部７５Ｄａを当接させてもよい。この場合、角部７５Ｄａをより上方に突出する形状とする必要がある。

40

【００４３】

以上、本発明の実施形態について説明したが、これらの実施形態は本発明の理解を容易にするために記載された単なる例示に過ぎず、本発明は当該実施形態に限定されるものではない。本発明の技術的範囲は、上記実施形態で開示した具体的な技術事項に限らず、そこから容易に導きうる様々な変形、変更、代替技術なども含む。

【００４４】

例えば、上記した実施形態では、上部野菜ボックス４５の被受部７７を前後方向に沿って二箇所設けているが、前後方向に沿って断続的に三箇所以上設けてもよく、断続的とせず、受部７５と同様に連続的に設けてもよい。被受部７７を連続的に設ける場合には、受部７５を前後方向に沿って断続的に複数設けてもよい。

50

【 0 0 4 5 】

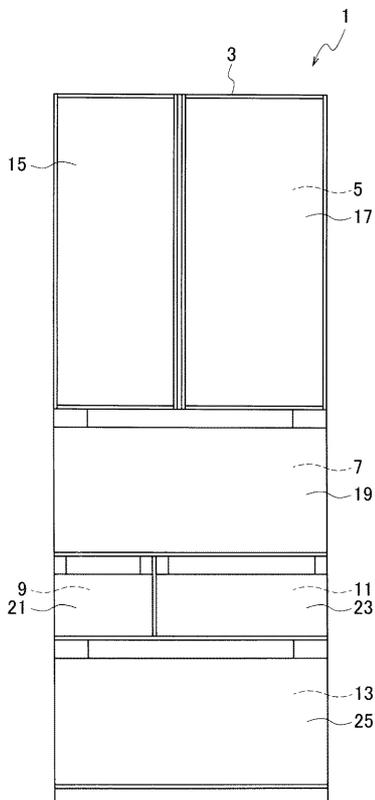
上記した各実施形態では、野菜室 7 の下部野菜ボックス 4 3 , 4 3 A , 4 3 B , 4 3 D 及び上部野菜ボックス 4 5 , 4 5 A , 4 5 B , 4 5 C について説明したが、他の冷凍室や冷蔵室などの貯蔵室に下部容器及び上部容器を配置したものについても本発明を適用できる。

【 符号の説明 】

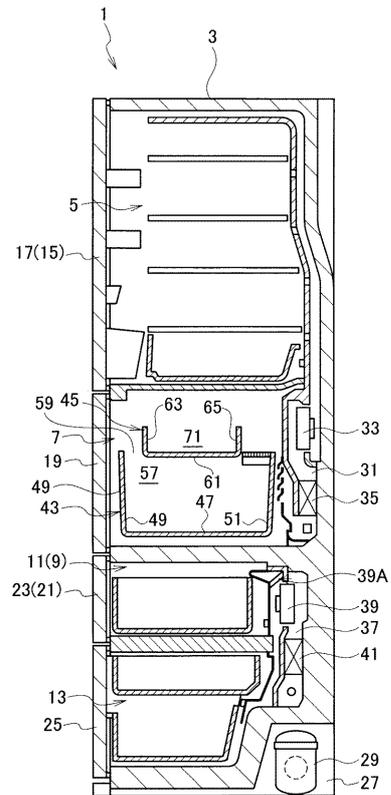
【 0 0 4 6 】

- 1 冷蔵庫
- 3 冷蔵庫本体
- 7 野菜室（貯蔵室）
- 4 3 , 4 3 A , 4 3 B , 4 3 D 下部野菜ボックス（下部容器）
- 4 5 , 4 5 A , 4 5 B , 4 5 C 上部野菜ボックス（上部容器）
- 5 9 下部野菜ボックスの上方開口部
- 7 5 a , 7 5 A a , 7 5 B a 下部野菜ボックスの下部当接面（傾斜面、当接部）
- 7 7 a , 7 7 A a , 7 7 B a 上部野菜ボックスの上部当接面（傾斜面、当接部）
- 7 5 D a 下部野菜ボックスの角部（当接部）
- 7 7 C a 上部野菜ボックスの角部（当接部）

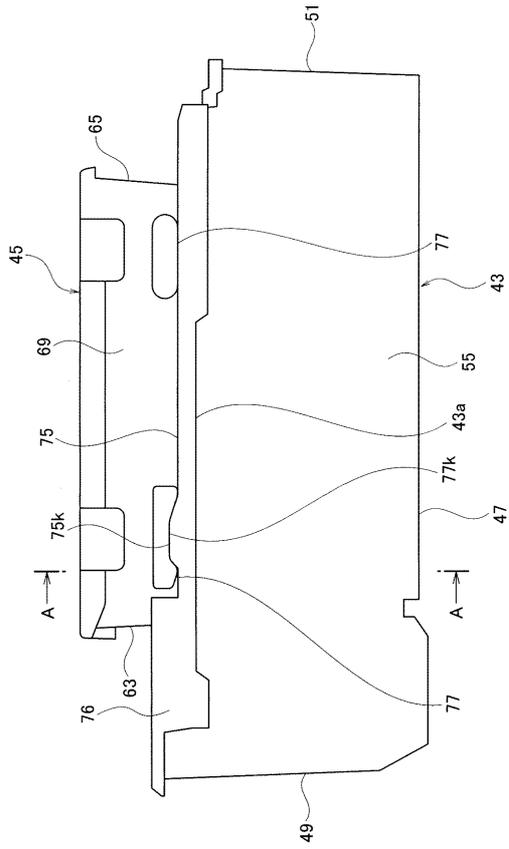
【 図 1 】



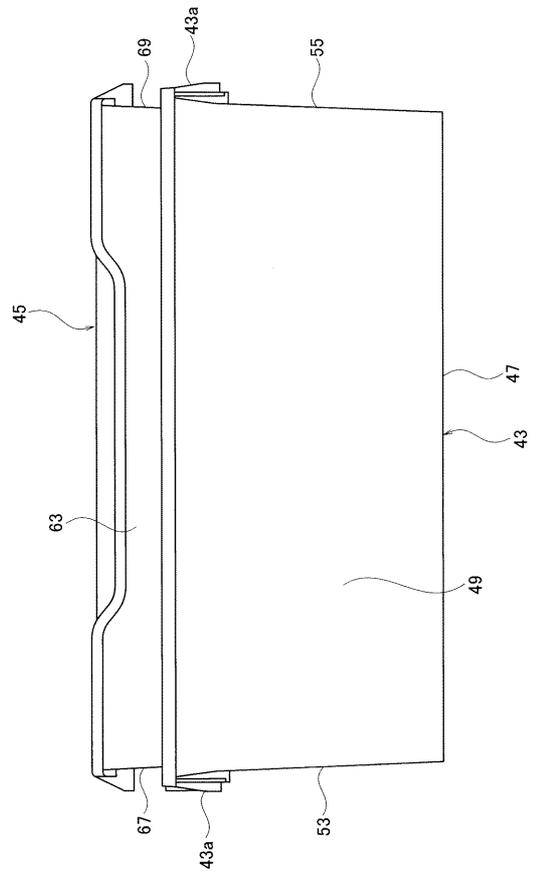
【 図 2 】



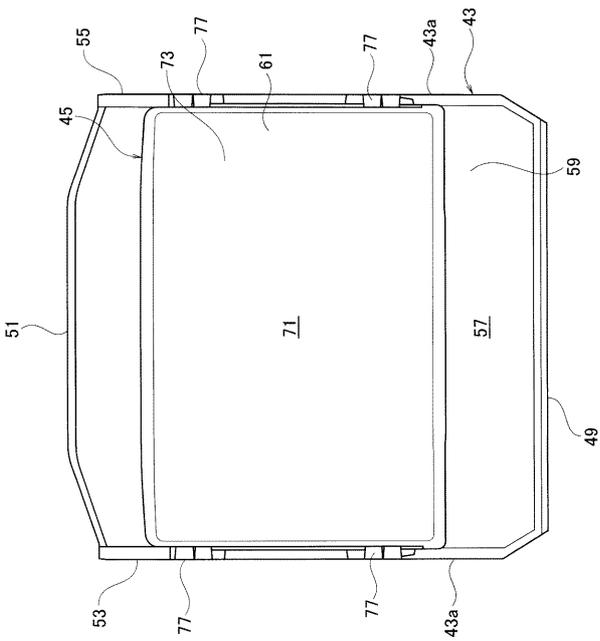
【 図 3 】



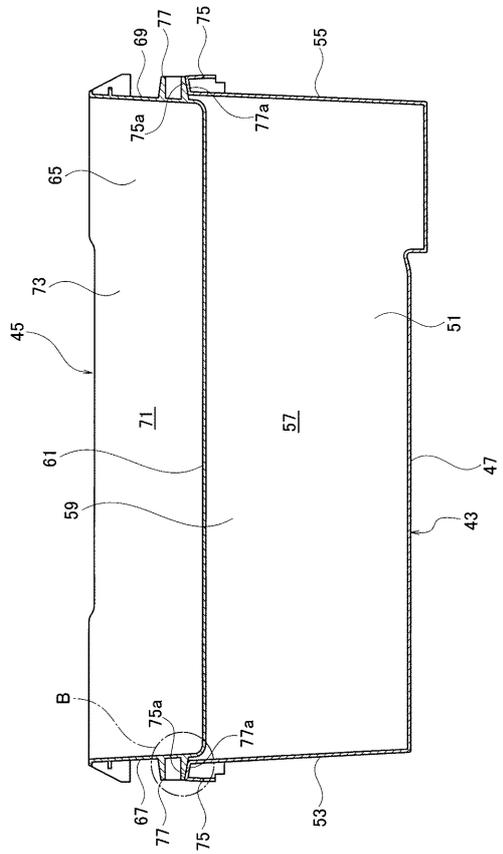
【 図 4 】



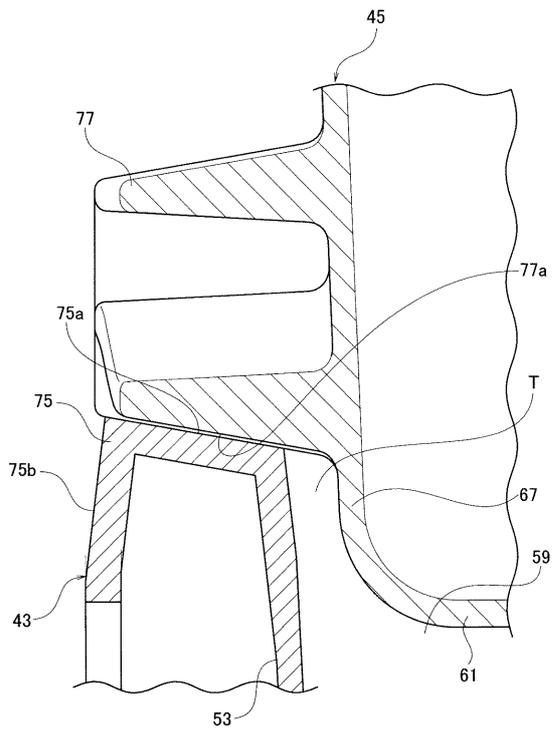
【 図 5 】



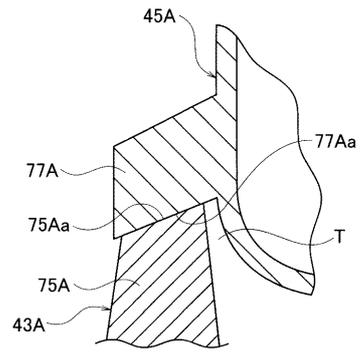
【 図 6 】



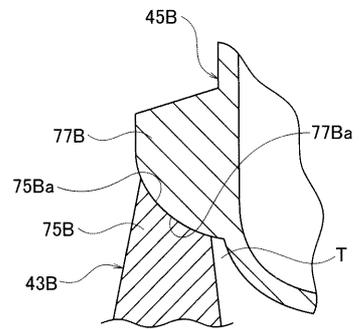
【図 7】



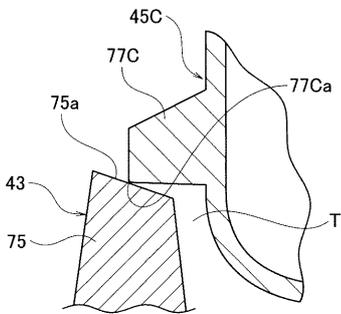
【図 8】



【図 9】



【図 10】



【図 11】

